

お陰さまで新鮮屋開店10周年！

平成15年10月28日に開店した新鮮屋も、今年で10周年を迎え、11月11日(月)に、記念セレモニーが開催されました。

市長と村長によるくす玉割りや、日ごろの感謝を込めて振舞いもちつき、きのこ汁のサーブスを行いました。また、調布市職員の有志による早乙女の参加があり、セレモニーに華を添えていただきました。

店内では11年目に突入ということ、で110円・1,100円セールや、村の特産品が当たるくじ引きを行い大勢のお客様にご好評いただきました。



11月9日(土)、10日(日) 西東京市祭りに参加

石川前会長、中島副会長の地元である西東京市民まつりに今年も参加しました。木島平村のきのこや、おやき、加工品など多くの木島平産物を販売しました。

当日は、天候もよく多くのお客様にきていただきました。



道陸神(どろろくじん)

村内でもあちこちで道陸神づくりが始まりました。

村内の西町地区では、11月2日に地区の子供10人やその保護者など15名が集まり道陸神づくりが始まりました。

木柱を3本建て、天辺を縄で縛り、その周りにカヤをかけて完成です。朝9時に始まった作業も、3時間程度で終了しました。



本番は、1月12日に行われ、書き初めやダルマ、三色団子などを中に入れ、無病息災などを祈ります。

道陸神は、どんど焼き、左義長とも言われ、全国各地で、子供の行事として行われています。

なお、道祖神は、集落の境や村の中心、村内と村外の境界などに石碑や石像の形で祀られる神で、集落と神域(常世や黄泉の国)を分かち過って迷い込まない、災いを招き入れないための結果なのだとか。道陸神(どんど焼き)は道祖神のお祭りとされているようです。

会報原稿募集中!

【送付先】〒389の2392 木島平村役場内、ふるさと応援団事務局

fax 0269の82の4121 ☒ kicho@kijimadaira.jp まい

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。

ふるちの思ひ出　くじくじ

八王子市　石川　安雄

たった15年間しか生活しなかつた故郷のことが季節毎に鮮明に思い出されて懐かしい。初雪が根雪になり、やがて1mを越える頃の大きな行事に“くじくじ”があつた。どうろくじん？私の住んでいる八王子ではドンド焼き、と言っている。



本番は毎年1月15日の夜である。

その準備は大変なのだが子供達が行う。雪深い山の雑木林にゴム長靴で入り込み、長さ約4〜5間(約7m〜9m)のなるべく真っ直ぐな檜の木を探し、切り倒し、枝ばらいをし、縄を付けて山から引き出す。一本を3〜4人で力を合わせて引くのだが軟らかな雪の斜面にブスッと長靴がうまる。軍手、軍足の手足は真っ赤になり、かじかんで痛い。集落の田んぼの会場まで運び出す頃は夜がそこまで迫って来て疲れがどつと出る。

山から引出した7〜8本の木の端をとんがり帽子の様に縛って櫓(やぐら)を建て中に棚を作り、集落の各戸から集めた稲わらや豆がらを詰込み、外側は縄で螺旋状に押えて完成となる。

出来上がった櫓は隣集落からの攻込みで当日までに火が出ない様見張りなどもした。当日の夜は集落の大人達が火付け役、子供達はそうはさせじと必死で守る。なれ合い？の攻防戦だった。大人の振りまわす松明の火の粉で顔や指先が熱い。どんな間合いか忘れたが、やがて櫓に火が回って天を焦す。書初めを竹竿の先に付けてその炎にかざし、火が付いて舞上がる。高く上がった方が、字がうまい？のだとか。



その後の子供達の行動が大切。自分達の身入りを左右するからだ。櫓に詰込んだ中味が燃え盛る中、素早く支柱をその炎の中から引出して燃えるのを防ぐ。木材に焼けこげが少ない方が高く売れるのだ。使用しないで取置いた木も含めて12〜13本は後日集落の有志に引取られて何がしかの収入になり、上級生が相談して参加した子供達に文房具などで寒さ、冷たさ、アカギレに耐えたご褒美として配られる。

遠い60年以上も昔のことであるが運動会や遠足等々と共に思い出深い行事でありました。現在の西町集落ではどの様なくじくじが行われているか、少子化の中、村の様々な行事やしきたりは変わっていることでしょう。